

「ファイバースノウ」の収穫適期*は 5月22日頃からと予想!

※収穫適期水分(子実水分が約30%)になる時期

《本年産の特徴と適期収穫》

- 4月の気温が高く推移し、現在の生育は平年より早まっています。
- 5月9日時点の穂の水分から、収穫適期は昨年よりやや早まると予想されます。
- 上記の予想を参考に、適期収穫ができるように早めの準備をお願いします。
- 収穫作業は安全確認を充分行い、事故を防ぎましょう。

【近畿地方 1か月予報】

大阪管区气象台 5月9日発表

(令和6年5月11日~6月10日の天候見通し)

○向こう1か月の気温は平年より高い見込み、降水量は平年並か多い見込み、日照時間はほぼ平年並の見込みです。

○週別の気温は、1週目(5/11~17)は高い見込み、2週目(5/18~24)は高い見込み、3~4週目(5/25~6/7)は高い見込みです。

収穫作業のポイントは裏面→

《収穫作業のポイント》

1. 大麦の収穫適期は子実水分25%以下！

子実水分が25%以下になってから収穫しましょう。麦に露がつきやすい早朝・夕方・降雨後は、穀粒の水分が著しく上昇するため、収穫作業は避けてください。また、栽培面積が大きい場合は、子実水分30%を切ったタイミングで、収穫をスタートしましょう。

《子実水分が高い場合のリスク》

- ・コンバインの回転数が高すぎると、粒が損傷し品質が低下します。また、収穫作業時の子実水分が高いと、より損傷粒が増加しやすくなります。
- ・乾燥調製施設のホッパー等が詰まり、処理能力の低下や乾燥ムラの原因になります。
- ・赤かび病等の病原菌がまん延したり、発熱や発酵、ムシやすくなります。

2. 赤かび粒は別仕分けを！

目視によるチェックを行い、赤かび病の被害粒が多く見られた場合は、別乾燥や別調製するなど仕分けを徹底してください。

3. 収穫後は速やかに乾燥施設へ！

湿度の高い時期の収穫のため、ムシによる品質低下や赤かび病の感染拡大を防ぐ必要があります。収穫した麦粒は長時間放置することは避け、速やかに乾燥施設に搬入しましょう。

4. 刈り遅れに注意！

刈り遅れると、穂発芽や倒伏の増加、赤かび病の発生等で品質低下のリスクが高まります。

5. 必要に応じて刈り分けの判断を！

以下のような場合は、刈り分けが必要です。

- ・赤かび病の発生が多い
- ・遅れ穂が多い（選別時、未熟粒が混入する恐れがある）
- ・倒伏の程度が大きい
- ・雑草の種子が混入する恐れがある（カラスノエンドウ等）

○収穫に向けて今一度、排水対策の徹底を…！

登熟期の湿害は減収するだけでなく、品質を大きく低下させます。また、大豆の播種作業を計画的に進めるためにも、排水溝を点検し速やかに排水されるよう、溝さらえなどを徹底しましょう。